

「いまできること」

新渡戸稲造記念センター センター長
順天堂大学 名誉教授
一般社団法人 がん哲学外来 理事長
「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」
会長 樋野興夫

コロナショックで外出自粛が求められる中、自宅過ごす時間が増え、『もしかして あのと時の大変さは、このときのため』の備えとして 自分を見つめながら 若き日の「内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄」の再読の時間帯が増えた。人生不思議である。また、部屋を整理していたら下記のニュースレターが出てきた。

「空っぽの器 友の会」(担当：彦田)
「越冬隊 友の会」(担当：大弥)
「人生ピンチヒッター 友の会」(担当：石井)
「21世紀の新島・内村 カタルバ」(担当：高山)
「心に咲く花会」(担当：齋藤)
「心の Spring Water (湧き水)」(担当：猪口)
「さいわい」(担当：海老澤)
「明日を考える会 ～次世代の社会貢献～」(担当：田口)
「がん哲学外来研修センター」(担当：星野)
「新渡戸稲造記念センター」(担当：星野)
「天空デイサービス万座」(担当：市村、齋藤、森)

継続は、人間としての 尊い行為である！ 人生の大切な想い出で、良き宝となろう！

2020年4月13日夕刊 毎日新聞『見上げてごらん：コロナ疲れへの処方箋＝永山悦子 - 毎日新聞』に続いて、2020年4月24日付デジタル朝日新聞『「不安から逃げずに」コロナ疲れのあなたに、言葉の薬』が掲載されたようである。映画『がんと生きる言葉の処方箋』の野澤和之 監督からは、「コロナ感染の終息が見えない中、一この状況下、今できることはないかと思い、出演者、関係者からの「言葉の処方箋」を伺うことになりました。ZOOMというWEB会議システムを使い、自宅から参加の対談をYouTubeで公開いたします。「がんと生きる言葉の処方箋」応援チャンネルをYouTubeのお気に入り動画としてチャンネル登録しますと、動画を探すことなく視聴できます」とのメールを頂いた。

○言葉の処方箋 (第一弾 全10回)

- ①野澤監督の言葉の処方箋 (<https://youtu.be/P3mxO1-P1Sk>)
- ②齋藤智恵美さんの言葉の処方箋 (<https://youtu.be/6KJityDfUWE>)
- ③齋藤智恵美さんの言葉の処方箋(https://youtu.be/HEqMATESV_A)
- ④中村航大君の言葉の処方箋 (https://youtu.be/oV2k07_KpnM)
- ⑤勝俣清三先生の言葉の処方箋 (<https://youtu.be/kplPFAjUqsA>)
- ⑥彦田かな子さんの言葉の処方箋 (<https://youtu.be/4AQj-MBKs2U>)
- ⑦彦田栄和君の言葉の処方箋 (<https://youtu.be/-ec4MhMYiVE>)
- ⑧石塚真一さんの言葉の処方箋 (<https://youtu.be/7PdhTqmMUhY>)
- ⑨宗本義則先生の言葉の処方箋 (<https://youtu.be/hzuHkZcB8j8>)
- ⑩星野昭江さんの言葉の処方箋 (https://youtu.be/agJN4AwS3_k)

○公式映画サイト <https://kotobanosyohousen.wixsite.com/website>

1860年代遣米使節団が、ニューヨークのブロードウェイを行進した。彼らの行進を見物した詩人ホイットマンは、印象を「考え深げな黙想と真摯な魂と輝く目」と表現している。まさに、これが「出演者の風貌」ではなかろうか！ 昨日(2020年5月13日)は、「がん哲学外来さいわいカフェ in 茨城・筑西」代表の海老澤規子氏から「日めくり」が送られて来た(添付)。大いに感動した。「群がる雲の陰には太陽が輝く」(新渡戸稲造)が、鮮明に思い出された。



「解決」はできなくても
「解消」はできる

茨城県筑西市
大んげ草
2020年5月

出典「日めくり 人生を変える 言葉の処方箋」樋野興夫 13

明日を
考える
ヒント

「いまは無いものについて考えるときではない。今あるもので何が出来るかを考えるときである」(ヘミングウェイ)
「つまづいたところにこそ、宝物がある」(ジョゼフ・キャンベル)